令和８年度　学 校 評 価 シート　〈前期中間報告〉

●7月：第１回児童アンケートと教職員アンケート実施予定　　●１月：第2回児童アンケートと教職員アンケート実施予定。保護者アンケート実施予定

＊評価：A：「十分に達成された」、B：「おおむね達成された」、C：「やや達成されなかった」、D：「達成されなかった」で評価　　上田市立西小学校

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
〈学校教育目標〉 かしこく　やさしく　たくましく 〈めざす児童の姿〉 進んで学ぶ子 豊かな心をもつ子 たくましく生きる子	○授業づくり 45 分間 心と体をフル回転して取り組む授業 子どもの意識に沿った探究的な学びの充実		・７月に、村瀬先生を講師に研究授業と研究会を行った。６年生の算数の授業では、児童の実態に合った課題により、自力で解決する姿や友と考える姿が見られ、学習が深まった。連学年会でどのような課題にするかを練って授業づくりができた。	・授業づくりでは、やり方ではなく「どういう課題が良いか」「この課題だとこのように児童は考えるだろう」というように、児童の実態を基に連学年で話し合うということができるとよい。研究授業だけでなく、今後も職員同士が児童の実態を基に対話し、日々の授業改善につなげていきたい。
	○集団づくり あいさつを通して安心して生活できる笑顔あふれる学校		・職員から挨拶をすると返す子どもは多いが、子どもから進んで挨拶をする姿がもっと増えるとよいと感じる。	・児童アンケートでは、８７％の児童があいさつができていると回答していた。【進んであいさつできる】という具体的な姿が、教師が期待する姿と児童の感じている姿とズレがあるのかもしれないが、まずは職員から積極的にあいさつすることを継続したい。
	○健康な心と体づくり 栄養・休養・睡眠・運動（活発な外遊び）を中心とする健康的な生活習慣づくり		・本校の児童の健康課題である歯科についての指導を、外部講師をお招きして３年と６年で授業を行った。３年生は参観日の授業として行い、保護者にも発信することができた。	・職員研修で、本校の児童の健康課題について共有できた。保護者にも伝えていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策・向上策
教育活動	教育課程	◇学校行事の充実	子どもたちを主役とし、満足感・達成感が残る行事を実施することができたか	・感染症対策をしていた頃から行事の目的やあり方を変えて現在に至っている。今年度は開会式に児童のめあての発表を位置づけたことはよかった。 ・行事に向けて学年や学級で目標を立てたり、子ども一人一人が目標を立てる時間を設けたりして、目的意識をもち、行事に向かうことができた。練習や準備で良い姿が見られたら広め、事後に振り返りを行ったことで、満足感を得る児童も多かったように感じる。	「子どものために教師が用意する」ではなく、児童が「こうしたい」と目的をもって取り組めるようにすることを前提とし、教師はそのフォローやサポートをするという立ち位置でよいのか、あるいはこれまでの「行事を通して力をつける」というねらいで推し進めていくのか、またはその両方の面を大事にするのかなど、今後の行事のねらいや在り方、教師の立ち位置について検討したい。
		◇どの子も安心して学べる教室環境づくり	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外の連携により個に応じた指導が行えたか	・７月に行った職員アンケートでは、安心して学べる教室環境づくりに関わる質問への評価が、昨年度より向上した。	・教室環境について、職員が互いに学べる機会があるとよい。 ・個に応じた指導を行うためには、担任一人で行うのではなく、学年や学校全体で共有して指導を行いたい。
	学習指導	◇聴き合う／学び合うことを通した協働的な学びの充実 （授業づくり）	授業で、心と体をフル回転して取り組む課題設定（ジャンプの課題）ができたか	・７月の村瀬先生の研究授業（６年１組）で、児童に合った問いの大切さが分かった。	・研究授業や研修での学びや成果が続いていないと感じるので、学校としての研究体制や目指すところを見直したい。
			教師は子どもの声に耳を傾けることができたか	・７月に行った職員アンケートでは、子どもの声に耳を傾けたかどうかの質問に対し、昨年度と比較すると【A：十分に達成された】の評価が増えたものの、【C:やや達成されなかった】の評価も増える結果となった。	・児童アンケート【先生にわからないことや心配なことを相談すると、よく聞いてくれる】の質問項目への評価が、昨年度よりも高くなったが、声が挙げられない児童の声にも耳を傾けていきたい。
			友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか	・グループ活動をする中で、自分になかった友の意見を受け入れたり、意見を出し合いながら試行錯誤したりする姿が多く見られた。	・教師自身も、友との関わり合いにより児童の学びが深まることを実感してきた。実践を重ね、共有して今後の研究につなげていきたい。
		◇体育学習の充実 （健康な心と体づくり）	運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業ができたか	・７月に行った職員アンケートでは、体育学習の充実に関わる質問への評価が、昨年度より向上した。	日常的に運動を親しむ児童とそうでない児童とで分かれていることが実態としてあるので、苦手な児童への関わり方や授業内容の工夫をしていく。

	生活指導	◇あいさつの充実（集団づくり）	あいさつを充実するためのはたらきかけができたか	・７月に行った職員アンケートでは、あいさつの充実に関わる質問への評価が、昨年度より向上した。	・あいさつは昨年度からの重点目標であるが、昨年度よりも教員自身の意識が高まっているので、引き続き教師が率先してあいさつをしたい。
		◇人権教育の充実	人権教育の授業改善を進め、いじめや差別のない学級とすることができたか	・７月に行った職員アンケートでは、人権教育の充実に関わる質問への評価が、昨年度より向上した。児童アンケートの結果を見ても、昨年度よりも【A：十分に達成された】の評価が８％増えた。	・教師の人権感覚をより高めていきたい。１１月２０（金）の三中ブロック人権同和教育研修会を通してより深く学んでいきたい。
		◇つながりを深める交流活動	ペア学級など異年齢との交流を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちを育てることができたか	・「西小アドベンチャー」でのペア学級の交流だけでなく、学校生活の中で、異年齢で関わる場面が増えてきた。各学年、各学級においても、保育園との交流や高齢者との交流なども企画している学級や学年がある。	・相手意識を高める大切な活動として引き続き重視していきたい。日常的にペア学級との交流ができる雰囲気があるので、交流を通して、より相手意識をもつという視点を高めていきたい。
学校運営	地域との連携	◇ふるさと学習の充実	生活科や総合的な学習の時間にふるさとで学びを深めることができたか	・地域の中での職業体験を企画し、実施している学級もある。２学期以降も地域に積極的に出て学べる機会を増やしていきたい。	・各学級や学年で取り組んだ活動を共有できるようにしたい。
		◇地域ボランティアの支援	ボランティア活動を積極的に進めることができたか	・多くの地域ボランティアの方に支援していただき、本当にありがたいと感じた。 ・１年生では、４月中毎日交代で給食時に入っていただいたため、給食のスタートが落ち着いてできた。	・コミュニティスクールが今年度より開設され、地域がより身近に感じられるようになった。連携という点では、活動をしながら考えていく必要がある。
	研修	◇教職員の指導力向上	互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善することができたか	・職員アンケートの同内容の項目の評価は、昨年度よりも高い結果であった。職員間での対話の時間を意識して取り入れた成果と考えられる。	・指導力向上とのつながりは、児童の具体的な姿や客観的なテスト等で判断したいが、まずは職員間で学ぶ雰囲気を大事にしていきたい。